

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：44317

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04018

研究課題名(和文) 保育事業がそなえる貧困予防の機能・役割に関する歴史的研究

研究課題名(英文) Historical Study on Preventive Functions of Poverty in Child Day Nursery Projects

研究代表者

中根 真 (NAKANE, MAKOTO)

龍谷大学短期大学部・こども教育学科・教授

研究者番号：00309642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は第1に保育事業が果たした貧困予防に関する過去のエビデンスを収集、分析することであり、第2に「子どもの貧困」対策の1つとして再考するための歴史的な事実や知見を見出すことであった。主要な研究成果は次の3つである。

第1に神戸市職員・生江孝之は日露戦争時の出征軍人児童保管所、戦後の戦役記念保育会を指導した。第2に内務省嘱託・生江は、保育事業を育児事業の経費節減と貧児の家庭養育を実現する国家レベルの社会政策構想に反映した。他方、第3に大阪市の財団法人弘済会は保育所家庭会を通して、家庭の養育や教育の相談に応じ、悪習慣の改善を促した。

研究成果の概要(英文)：Firstly this study aims to collect and analyze past evidences on preventive functions of poverty in child day nursery projects and secondly to discover historical facts and knowledge for reconsidering as a countermeasure against child poverty. Main research results in the following three.

First, a Kobe City officer Takayuki Namae directed child day nursery centers for military service men in the Russo-Japanese War and postwar the Commemorative Day Nursery Foundation of the Russo-Japanese War. Secondly, a temporary employee Namae of the Ministry of Home Affairs influenced child day nursery projects to state level scheme of social policy for retrenchment of expenditure of children's home and attainment of home care and education for poor children. Third, whereas in Osaka City the Foundation of Kousaikai directed day nursery children's families through day nursery meeting with child families that staffs consulted their home care and education and facilitated to improve bad practice.

研究分野：社会福祉学，社会福祉史，地域福祉，保育事業史

キーワード：子どもの貧困 生江孝之 留岡幸助 非行予防 出征軍人児童保管所 財団法人戦役記念保育会 財団法人弘済会 保育所家庭会

## 1. 研究開始当初の背景

日本の保育制度・政策は「子どもの貧困」が深刻化するなか、貧困対策としての再考を求められている。2013年6月の子どもの貧困対策推進法を受け、2014年8月には「子供の貧困対策に関する大綱」が公表された。そこでは「貧困の連鎖を防ぐための幼児教育の無償化の推進及び幼児教育の質の向上」や、保護者・子供の生活支援としての保育の意義と可能性が言及されている。

他方、国際的にも子ども期の中で貧困が後の人生に最も影響するのは就学前の乳幼児期であり、乳幼児教育・保育の重要性が認識されている。また、比較福祉国家論で著名なE.アンデルセンも「家庭という壁のなかで起きていること」を「社会的相続のメカニズム」として問題にし、その是正政策の1つとして「利用料が手ごろで質の高い外部の保育サービス」に注目している。

国内外の動向をふまえると、保育事業がそなえる貧困予防の機能・役割に改めて注目し、理論的かつ歴史的に明らかにする必要がある。基本的には、保育事業者が貧困世帯の乳幼児と保護者双方に積極的に働きかけ、貧困の影響を最小限に止める機能・役割であるが、現状分析だけでなく、歴史分析も交えつつ、「貧困対策としての再考」が多様に求められている。

## 2. 研究の目的

「子どもの貧困」が社会問題として深刻化するなか、乳幼児の保育事業がそなえる貧困予防の機能・役割に改めて注目し、理論的かつ歴史的に明らかにする必要がある。主な理由は、保護者の就労支援の機能・役割に矮小化されがちな国内の議論や動向を歴史的に相対化するためである。

本研究は、日本の保育事業の源流の1つとなった大正期・昭和期の財団法人弘済会の保育事業を研究対象とし、貧困の影響を軽減・

緩和するため、当時の保育事業者が貧困世帯の乳幼児と保護者双方にどのように働きかけ、どのような手段や方策を講じていたのかを史資料に依拠して明らかにする。その目的は、保育事業が果たした貧困予防に関する過去のエビデンスを収集、分析し、「子どもの貧困」対策の1つとして再考するための歴史的な事実や知見を見出すことにある。

## 3. 研究の方法

各種の史資料に依拠した文献調査法

## 4. 研究成果

### (1) 平成27年度

当初の研究計画では大正期・昭和期の財団法人弘済会の保育事業を対象としていたが、平成27年度中に研究枠組みの検討を重ねるなか、明治期にさかのぼる必要性が生じたため、日露戦争中・戦後の神戸市に焦点をあてた研究を行なった。具体的な研究成果として2本の査読付き研究論文を発表した。

第1論文は『戦役記念保育会第一回報告書』(1908年)第1章「児童保育事業の要義と其必要」を詳しく検討し、保育所設立の必要が5つの必要(児童教育、軍人遺家族援護、家庭改良、生産力増殖、貧民防遏)から主張されていることを明らかにした。その上で、地域福祉史研究の意義として保育所設立の必要を包括的に論じていた点と内務省政策に対する先導性の2点に見出した。

第2論文は神戸市における出征軍人児童保管所(1904年)が内務省のリーディング・ケースであった点に注目し、創設とその背景を詳しく検討した。具体的には神戸市婦人奉公会の創設経緯や児童保管所の概観をふまえ、児童保管所が現金扶助の抑制・低減を目的とし、その原動力は地域婦人が「女性の本分としての遺家族の救護」に「応分の力」を発揮できる場と機会を得たことにあると分析した。

以上によって、明治期における保育事業の社会的・国家的な位置づけをある程度明らかになった。

## (2) 平成 28 年度

前年度に引き続き、大きくは 3 つの調査・研究を進めた。

第 1 に、大正期大阪市社会事業行政について、『大阪市社会事業案内』（大阪市役所社会部，1922 年 3 月刊行，全 42 ページ）を史料として、市民の社会事業理解の促進，社会事業情報の提供，「福祉教育」教材としての意味を明らかにした。結論的には自助主義や啓発による個人の完成を目的・手段に掲げる助役・関一の都市社会政策観と顧問・小河滋次郎の救済事業観（広義の教育事業）とは親和性をもったことから、各種施設や事業等の情報を提供し、活用を促す当該冊子はまさしく「福祉教育」教材であり、方面委員がその担い手であったことを明らかにした。

第 2 に、昼間保育事業の先駆者・生江孝之の神戸市職員時代に焦点をあて、再評価を試みた。具体的には神戸市婦人奉公会発足の経緯，児童保管所の運営について要約し，生江が当初，保育事業のためではなく，救済事業の企画・立案者として採用されたこと，彼の保育事業構想は留岡幸助によって鼓舞され，非行予防が保育事業の主要目的であったことを明らかにした。

第 3 に，20 世紀初頭日本の社会政策構想における保育事業の位置について，『救済事業調査要項』（原胤昭編，中央慈善協会，1911 年 10 月刊行，全 98 ページ）を史料として，児童保護事業に占める保育事業の位置づけ，内務省囑託・生江孝之の影響を分析した。具体的には保育事業が「育児事業の病的膨張」の是正策として有望視され，経費節減と貧児の家庭養育を実現する「一挙両得の策」に位置づけられていたこと，また生江が幼児保育事業の箇所を執筆したと推察すれば，神戸市

における一社会事業囑託 / 社会事業家としての保育事業経験や欧米の知見が国家レベルの社会政策構想に反映されていたことを明らかにした。

以上、平成 28 年度は大阪市、神戸市という自治体レベルの検討に加え、国家レベルの社会政策構想における保育事業の位置づけを検討した。これらの検討によって、財団法人弘済会保育部とその保育事業が創設される前後の時代状況を解明することができた。

## (3) 平成 29 年度

最終年度は当初の研究計画に立ち戻り，財団法人弘済会保育部とその保育事業に関する事例調査・研究を大正期に限定して推進した。5 月には大阪府立中之島図書館にて，これまで未入手であった 1917～1922 年刊行の『弘済会報』の収集を行い，史料の精読と分析を進めた。とりわけ，各保育所において開催されていた母姉会や父母の会，家庭会の記事を中心に検討を進め，保育関係者と保護者とがどのようなコミュニケーションを図っていたのか，具体的な言説を整理した。

その結果，保育所は家庭会を通して，よろず相談に応じ，家庭の躰や教育の指導・啓発を図り，悪習慣の改善 買い食いの禁止や貯金奨励，児童の面前での夫婦喧嘩を控えるなどを促し，家庭の「不足」を補い，親子の境遇 改善をめざす「精神的指導」を展開していたことを明らかにした。

なお，直接的には保育事業の貧困予防機能・役割に関する研究ではないが，大正期における社会問題論・社会問題対策論の検討を行い，論文を発表した。この論文は，龍谷大学における社会事業研究・教育の実質的な先駆者であった海野幸徳と京都帝国大学の社会学者・米田庄太郎の接点に着目し，米田の『続社会問題の社会学的考察』（1921 年，以下『続・考察』と略記）の分析を通して，二人の親交がもった意味を明らかにした。具体

的には『続・考察』のうち、「低能犯罪者」(第6章)、「免囚保護問題」(第8章)など米田の社会問題論や社会問題対策論の内容を検討した結果、その論旨は<社会事業の科学化の論理>として集約され、それらは海野の<慈善の科学化の論理>と少なからず親和性があったことなどを明らかにした。

したがって、両者の論理構築の理由や動機、依拠する科学に相違はあったが、境遇と遺伝の二分法 境遇要因と遺伝的素質要因を認識する枠組み にもとづき、救済の科学化を志向する目標を共有していたという意味で、二人は同志的な関係にあったと結論づけた。

以上、同時代における社会問題論・社会問題対策論の検討をふまえると、保育事業の貧困予防・機能とは結局、乳幼児の 境遇 改善に加え、保護者の養育上の 境遇 改善という二重の意味をもっていたと考えられる。

また、弘済会の保育事業に関する事例調査・研究によって明らかになった個別・具体的な状況を総合すると、各保育所の母姉会や父母の会、家庭会における保育関係者と保護者とのコミュニケーションは、親子の 境遇 改善をめざす「精神的指導」(鈴木 1997)の具体的な展開であったと結論づけられた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

中根真，海野幸徳と社会学者・米田庄太郎，龍谷大學論集，490号，2017，1 - 20

中根真，20世紀初頭日本の社会政策構想における保育事業の位置，社会政策学会，社会政策，8巻3号，2017，120 - 130

中根真，昼間保育事業の先駆者・生江孝之の再評価，日本保育学会，保育学研究，54巻2号，2016，116 - 125，

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/reccej/54/2/54\\_18/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/reccej/54/2/54_18/_pdf/-char/ja)

中根真，大正期大阪市社会事業行政における「福祉教育」教材，日本福祉教育・ボランティア学習学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要，26号，2016，5 - 14

中根真，出征軍人児童保管所の創設とその背景，公益財団法人日本生命済生会，地域福祉研究，44号，2016，90 - 99

中根真，財団法人戦役記念保育会の保育事業構想，日本地域福祉学会，日本の地域福祉，29巻，2016，43 - 53

[学会発表](計0件)

[図書](計2件)

中根真，保育事業がそなえる貧困予防の機能・役割に関する歴史的研究 平成27年度～平成29年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書，2018，全130ページ

中根真，保育制度・政策形成における生江孝之と神戸市の保育事業の先駆的役割に関する研究，平成28年度大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻 博士学位論文，2017，全126ページ，<http://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/contents/osakacu/kiyo/111TDA3652.pdf>

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

中根 真 (NAKANE, Makoto)

龍谷大学短期大学部・教授

研究者番号：00309642

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

### (4)研究協力者

( )